

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 森 俊三

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■[編集後記](#)

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 森 俊三

新しい年を迎えるにあたりまして、年頭の所感を述べさせていただきます。

まず、日本経済の状況ですが、景気回復の動きが広がりつつあります。住宅着工件数が増加し、塩ビの内需は、暦年で107万トン程度前後に回復し、前年比で4%程度の伸びが予想されています。また、円高是正にともない、輸出も前年に比べて4割程度増加し、塩ビの出荷量は合計で140万トン強と、前年比で二桁の伸びとなりそうです。復興需要はこれから本格的に伸びて行くことが予想されますが、消費税の増税前の駆け込み需要の反動なども

あり、市場の動向を引き続き注視していく必要があると思います。中期的には、中国市場の動向に不透明性はあるものの、新興国での塩ビの需要は旺盛であり、これらの国々のインフラ整備を通じ世界経済の成長に貢献しながら世界の塩ビ需要は着実に伸びると予想されます。

さて、塩ビ製品については、その優れた環境性能やデザイン性などが改めて認識され、塩ビ製品に対する良い評価が広がってきていることを実感しております。

ご承知の通り、塩ビの環境性能は多岐にわたります。50年を超えてもほとんど劣化することがない塩ビ管に代表されますように、塩ビ製品の多くは建材として長期間使われており、その耐久性が資源とエネルギーの節約につながります。そもそも、塩ビ樹脂の原料の6割は、無尽蔵にあります塩から作られており、石油への依存が少ない材料です。しかも、長い年月使われた塩ビ製品はリサイクルされています。塩ビのタイルカーペットは、7回ものリサイクルが可能と言われています。

さて、今年は、ブラジルでサッカーのワールドカップが開催されますが、その一部の施設では、2012年のロンドン・オリンピックで使用された塩ビシートが再利用されることとなっています。2016年に同じくブラジルのリオデジャネイロで開催されるオリンピックでももう一度使用される予定となっています。ロンドン・オリンピックでは、メインスタジ



VEC 森会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 谷審議員

アムをはじめとする各種競技場で様々な塩ビ製品が使われました。なかでも、塩ビシートは、東京ドームの広さの3倍にも及びました。仮施設として使われた製品は、リサイクルされて他の製品として生まれ変わります。東京オリンピックの2020年開催が決まりましたことは日本にとりまして大変嬉しいニュースでした。ブラジルで、そして、東京で、塩ビ製品の環境性能を存分に発揮させ、貢献して参りたいと思います。

昨年は、14年ぶりに住宅の省エネ基準が改正されるとともに、建材についても「トップランナー基準」が導入されました。住宅の断熱性能の向上は、省エネに貢献するだけではなく、住む人にも優しいものであり、高齢化が進む日本の社会にとってきわめて重要な課題です。断熱性能の鍵を握るのは窓です。ここにきまして塩ビ製の樹脂窓の導入に弾みが付いてきました。住宅版エコポイントが終了した後でも、エコポイント導入以前に比べて樹脂窓の販売は2倍に伸びています。メーカーも製品の断熱性能を積極的に競うようになりました。昨年、仙台、東京で開催した、住宅の断熱性能に関するシンポジウムも盛況でした。この分野で塩ビが大きな貢献をしていくものと期待しております。

塩ビ製品のデザイン性は、昨年も、多くのデザイナーを惹き付けました。「PVC Design Award」は、昨年、三回目を迎え、応募製品の質の高さは目を見張るものがありました。デザインの提案が前年の144件から220件へと増え、プロのデザイナーから多数の応募がありました。製品としての提案にも、企画、そして制作段階からデザイナーと共に取り組んだものが多数あり、デザイナーと製品加工業界、そして、素材供給者との縦横の連携は一段と深化しました。会場に展示されております受賞作品のいくつかについては、商品化に向けた取組が進んでいます。大きな流れとして育てていくために、今年も継続したいと考えており、関連業界の方々と検討を開始しております。



VEC 賀詞交歓会風景

今年も、各界の皆様のご支援を賜りながら、塩ビ需要の回復と成長に向けて当協会の活動を一丸となって進めて参る所存でございますので、よろしくお願いいたします。

(1月8日開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

■ 年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。

昨年は、景気の回復や復興需要が顕在化してきたおかげで、塩ビの需要が上向き、業界にも明るさが出てきました。環境問題や資源エネルギーの制約に対応しつつ、中長期的に持続性ある成長を目指す上で、塩ビ製品が活躍できる場面は多いと思います。

昨年を振り返ると塩ビ製品に対するポジティブな評価が広がっていることを感じます。

昨年、3度目を迎えた PVC Design Award では、多くのプロフェッショナルなデザイナーが多数の応募をしてくださいました。塩ビがデザイナーにとって、魅力のある素材との認識が広がっている証左だと思います。おかげ様で、応募作品の質が全体的に大きくレベルアップしました。プロタイプは、ひと月余りの短い期間での製作となりましたが、素晴らしい出来上がりでした。また、表彰・授賞式の懇親会では、表彰を受けた入賞者やものづくりに携わる方々が、入賞製品を手に取りつつ、早速、ここをこう改善したらと議論に花を咲かせていました。デザイン的に面白いというだけにとどまらず、優れた商品作りに結びつけようという思いを多くの方が共有されていたのだと思います。

過去の受賞作品で、上市されているものはまだ限られていますが、製品・加工、素材製造を行う企業がデザイナーを交えて互いに協力し、新製品を試作する試みは着実に広がっています。今年も、このような輪を広げていければと思います。

昨年末のエコプロダクツ展では、過去の例にならい、展示品だけでなく、ブース及び展示品を置くテーブルや床材を含めて、オール塩ビ製品としました。会場内の興味深いブースをボランティアの方が選びツアーを組まれています。ここ数年、VEC/JPEC のブースを訪問先として選んでいただいています。ボランティアの説明員は、パイプ、床材、窓などの建材だけでなく、日用雑貨、医療用具、自動車用ワイヤーハーネスなど、きわめて多様な製品で、塩ビならではの成形・加工性、デザイン性、耐久性、信頼性等の特長が活かされていることを強調されます。50年以上経ってもほとんど劣化しない埋設管と、それが再度生まれ変わってパイプとなる様は、来場された方々にとってインパクトの強いものだったと思います。床材の端材で作った洒落たバッグを手に取り、「床材として使えるくらい耐久性があってひっかき傷も付きにくく汚れも落としやすいので、バッグとしても最適なのです」はとても説得性のあるメッセージでした。樹脂窓は、すっかりと認知されてきたようです。ああ、あれですね、という来訪者が多かったです。会場の別の場所では、断熱性能に優れた樹脂窓でエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞した製品が大きく展示されていました。

ちなみに、VEC/JPEC の展示後のブースと製品は、リユース、リサイクルされています。今年は、パイプの他、板材、床材が「おさかなポスト^注」でリユースされています。パイプは多摩川で在来種の避難場所に、板材は、水槽の蓋や仕切りに、床材はオフィスで再使用いただいています。

IPCC 第5次評価報告書が出揃う今年は、地球環境問題とエネルギー・資源の有効利用について、問い直す年となるかもしれません。その中で、塩ビという素材の環境性能が持続的成長に大きく貢献できることをアピールしていきたいと思います。今年もよろしくお願いたします。

注：多摩川の在来種の保護に取り組んでいるNPOです。飼育できなくなった外来種のペットを引き取り、処分せずに里親を捜します。創設者は山崎充哲さん。ご著書の『タマゾン川 多摩川でいのちを考える』[旬報社](#)、2012年6月出版で第60回[産経児童出版文化賞](#)大賞を受賞されています。

■ 編集後記

あけましておめでとうございます。

例年より長い正月休みもあっという間に終わりました。

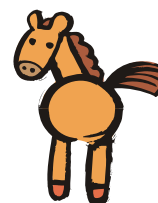
毎年、抱負らしいものを毎年なんとなく決めるのですが、「昨年とは・・・?」。なんだったかそもそも思い出せない。

今年は思い出せなくなる抱負なんて大きなことでなく、ささやかに「控酒」。家で晩酌はしないのですが、出張に行った先ではずっと飲んでいきます。そのためか体型と体重に大きな変化が。今年は少しでもお酒を控えるようにしようと思います。

今年も事務局一同で楽しいメルマガをお届けいたします。お楽しみ下さい。(リマル)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp